

国体開催競技団体 強化方針及び目標

No.	競技	強化方針	本国体における目標				
			種別	最高	最低	競技得点	合計
1	水泳	<p>競泳:中高生を対象にした合宿を定期的に行うと同時にその下の年代の強化も合わせて行っていく。スピード持久力のアップを目指すとともに、メンタルの強さを必要だと感じている。また、全国大会の場数を増やすことも必要事項だと考える。</p> <p>飛込:技の完成度を上げていきつつ、難易度の高い技に挑戦していく。そのためには、基礎体力の向上が必要不可欠である。</p> <p>水球:県内にチームがないために、県外へ遠征、また、大学チームとの合同練習で力をつけていく。九州内が強いため、まずは本国体に出場するように経験を積ませていきたい。</p>	成年男子	競泳 1種目3位・入賞1種目 飛込 入賞	競泳 入賞1種目 飛込 本国体出場	5.0	20.0
			成年女子	競泳 表彰台1種目・入賞1種目	競泳 入賞2種目	5.0	
			少年男子	競泳 表彰台1種目・入賞1種目 飛込 優勝 水球 ベスト8	競泳 入賞1種目 飛込 入賞 水球 本国体出場	10.0	
			少年女子	競泳 入賞1種目	競泳 本国体出場	0.0	
2	ボート	<p>【少年男女】 今年度、早稲田佐賀中高、唐津東高、唐津西高、唐津商業高で合同練習・合宿を年間を通して行い、選抜チームとしての意識を高め、国民体育大会、全日本ジュニア選手権大会(U19日本代表選手選考会)を最終目標に置いたトレーニングをしていく。</p> <p>【成年男女】 ふるさと選手の福本温子(ロンドン五輪代表)、下尾裕子(富山国際大4)、大木俊介(日本体育大3)、麻生信吾(富山国際大3)を中心に、地元で競技を続ける選手(高崎智世、坂本悦子など)を重点的に強化する。また、佐賀大学医学部ボート部の選手から有望な選手を早期ピックアップし強化する。</p> <p>【その他】 少年成年の合同練習・合宿を開催し、互いに高めあう機会を設ける。また、佐賀市富士町の嘉瀬川ダム湖面を有効活用し、レースモードのトレーニングを積んでいく。</p>	成年男子	8位入賞	準決勝進出	1.0	52.0
			成年女子	4位入賞	8位	25.0	
			少年男子	8位入賞	準決勝進出	1.0	
			少年女子	優勝	8位	25.0	
3	ヨット	<p>1. 最大目標総合優勝 2. チーム佐賀として種目間、コーチ、スタッフの連携、協力体制の強化 3. 国体選手が県民のロールモデルとなり、社会に貢献する。 4. 次世代選手の強化</p>	成年男子	レーザー級 10位、国体ウインドサーフィン級 8位、470級 1位	レーザー級 20位、国体ウインドサーフィン級 15位、470級 6位	24.0	91.0
			成年女子	セーリングスピリッツ級 4位、ラジアル級 6位、国体ウインドサーフィン級 10位	セーリングスピリッツ級 8位、ラジアル級 10位、国体ウインドサーフィン級 15位	18.0	
			少年男子	420級 3位、ラジアル級 4位	420級 6位 ラジアル級 8位	23.0	
			少年女子	420級 3位、ラジアル級 1位	420級 6位 ラジアル級 5位	26.0	
4	陸上	<p>成年の得点を確実にするために担当コーチとの連携を図り、強化部としてできるだけサポートをする。 少年については、インターハイの結果にとらわれず、秋までに継続したトレーニングを実施して強化策を推進し、戦える状況をつくる。</p>	成年男子	11	1	5.0	27.0
			成年女子	23	14	18.0	
			少年男子	5	0	2.0	
			少年女子	3	0	2.0	

No.	競技	強化方針	本国体における目標				
			種別	最高	最低	競技得点	合計
5	サッカー	<p>小学校5年生から中学校3年生を対象にしている「トレセン活動」の集大成として各種別で本国体出場を目指し、強化を進めている。</p> <p>各種別とも指導スタッフを変え、新たな気持ちで強化練習に取り組もうとしている。</p> <p>少年は、16歳以下の選手でチームを編成する大会で、この方式になって4回本国体へ出場している。4月下旬に実施されたブロック国体組み分けのための大会では安定した試合運びで優勝し、ブロック国体での優勝を目指してさらに強化していきたい。</p> <p>女子については、所属会社の事情等でふるさと選手の起用が困難であるが、県内のトップ選手のレベルも上がってきており、組合せによっては、期待できる。</p> <p>成年男子は、社会人と大学生の混合でリクシルや佐賀大学も九州リーグ等で調子が上がってきており、強化練習会で選手間の連携等を確認し、本国体出場を目指す。</p>	成年男子		本国体出場	0.0	20.0
			女子		本国体出場	0.0	
			少年男子	本国体8位入賞	本国体出場	20.0	
6	テニス	<p>少年の部の選手強化は例年どおり、高校テニス専門部と連携して、強化練習と強化遠征を行う。特に少年の部では、隣県強化選手との強化試合を毎年行っており、強化策としての成果が出てきている。反面、毎年強化策が十分でないのが成年選手であり、その理由が県外の学生選手とのスケジュール調整である。しかし、今年は、4名中2名が県内選手、1名が福岡県の学生ということもあり、佐賀県内で強化練習を行うことが可能な環境。少年の部と連携して強化練習の数を増やし、強化を図る。</p>	成年男子	ベスト8	本国体出場	3.0	12.0
			成年女子	ベスト8	本国体出場	3.0	
			少年男子	ベスト8	ベスト32	3.0	
			少年女子	ベスト8	ベスト32	3.0	
7	ホッケー	<ul style="list-style-type: none"> ・成年男女については、練習日の設定を行い活動の充実を行う。 ・人工芝での練習およびゲームを行う。 ・県外への遠征(関西方面)強豪チームとの練習ゲーム。 	成年男子	5位	九州ブロック決勝進出	20.0	136.0
			成年女子	3位	本国体出場	48.0	
			少年男子	5位	本国体出場	48.0	
			少年女子	5位	本国体出場	20.0	
8	ボクシング	<p>少年:昨年度に引き続き競技人口は少ないが、幼年期からボクシングを始めたフライ級の関拳児(佐賀学園2年)を筆頭に、山田郁海(高志館3年)・成富丈一郎(杵島商業1年)を中心に活躍が見込まれる。県内合同練習で基礎体力強化・県外遠征で実践の強化を図っていく。</p> <p>成年:今年度は、ポイントゲッターである川内選手が海外試合と重なり、出場が困難であるため、関東の大学に進学している2名の選手とM級の高島選手を中心に強化を図らなければならない。大学の選手は、関東大学リーグ戦を主にしっかりと強化を図らせる。地元の選手は、昨年度も練習が少なかったため、県外遠征を増やし強化を図る。</p>	成年男子	1位	4位	14.0	25.0
			少年男子	2位	4位	11.0	
9	バレーボール	<p>成年男・女については、選手確保に力を入れる。少年男・女については、全国総体出場チーム、スタッフを中心とした選抜チームで臨む。</p>	成年男子	国体ベスト4	本国体出場	25.0	65.0
			成年女子	国体ベスト4	本国体出場	25.0	
			少年男子	国体ベスト8	本国体出場	7.5	
			少年女子	国体ベスト8	本国体出場	7.5	

No.	競技	強化方針	本国体における目標				
			種別	最高	最低	競技得点	合計
10	体操	<p>【競技】</p> <p>○成年男女</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学との連携を密にする。 ・ 西日本、東日本、全日本インカレの視察を通して、ベストメンバーを選抜する。 ・ 強化合宿を実施する。 <p>○少年男女</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日々、計画的に強化練習に取り組んでいる。 ・ 将来を見据えた強化を実施し、安定した入賞を目指す。 <p>【新体操】</p> <p>昨年は、団体のミスにより上位に入賞することができなかったため、本年度はメンタルの強化を図りミスのない演技をして上位入賞を目指す。</p> <p>団体・個人ともに実施面での減点を減らすためにバレエレッスンにも力をいれ、クオリティを高める。</p> <p>かささぎジュニアと連携し、小学生・中学生からの強化に努め、正しい基礎の習得ができるようにジュニアの指導者と練習内容や演技内容について情報交換し、研修会などにも取り組む。</p>	成年男子	8位内	8位	5.0	60.0
			成年女子	3位内	8位	5.0	
			少年男子	8位内	予選通過	5.0	
			少年女子	8位内	予選通過	5.0	
			少年女子(新体操)	優勝	6位	40.0	
11	バスケットボール	<p>【成年男子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内外の有力選手の確保と育成 ・ コンビネーションを含めたチーム総合力の向上 ・ 個々の技術力向上とプレーの理解、体力面の充実 ・ コーチ・スタッフの指導力の向上 ・ 母体チームを中心とした継続的な強化 <p>【成年女子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最後まで走りぬく体力強化 ・ チームディフェンスの徹底(ハーフコートのマン・ツー・マン) ・ 日々の練習からタフなメンタル力を養う ・ 佐賀県代表としての責任と自覚を持たせる <p>【少年男子】</p> <p>九州ブロック2枠の出場権を目指し、強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大型選手不在のため、全員が走って守って攻めることができる選手の選出。 ・ オールラウンドプレーを随所に生かし、全員出場で勝利をつかむ。 <p>[ディフェンス]・・・マッチアップゾーン</p> <p>[オフェンス]・・・ファイブアウトNo.プレー</p> <p>【少年女子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 走り続ける。 ・ トランジションの速いバスケットボールを目指す。 ・ 慎重に捉れないゲーム展開をできる選手選考と指導 	成年男子	ベスト8	全国勝利	12.5	50.0
			成年女子	ベスト8	全国勝利	12.5	
			少年男子	ベスト8	全国勝利	12.5	
			少年女子	ベスト8	山口国体以来の1勝	12.5	
12	レスリング	<p>県内では競技人口が少なく、十分な実戦練習ができないので、他県へ出向き、強化合宿等を行う。</p> <p>ジュニア層の拡大・強化・発掘</p> <p>現在→鹿島・鳥栖でジュニアクラブが週2,3回活動中</p>	成年男子	個人優勝	個人3位入賞	20.0	40.0
			少年男子	個人優勝	個人3位入賞	20.0	
13	ウエイトリフティング	<p>当面の課題として、全国で活躍できる県では小学生から強化の対象として活動している。</p> <p>当県でもせめて中学生から一貫指導ができる体制を整えることが必要だと考えている。</p> <p>佐賀国体に向けて、現在の小学4年生を対象に獲得したいと考えているが、チャレンジスポーツ教室は、大変時機を得た取り組みであると感謝している。</p> <p>底辺拡大については、県体協の協力をぜひお願いしたい。</p> <p>今年度の国体に向けては、少年と成年の合同合宿で強化を図ることとしている。</p>	成年男子	成年男子出場2選手とも6位以内の入賞を目指す。	成年男子出場2選手とも8位以内の入賞を目指す。	8.0	20.0
			少年男子	出場3選手の内、1名は3位以内、1名は6位以内を目指す。	出場3選手の内、1名は5位以内、1名は8位以内を目指す。	12.0	

No.	競技	強化方針	本国体における目標				
			種別	最高	最低	競技得点	合計
14	ハンドボール	<p>・組織の拡充・強化⇒選手強化のためのリーダーの養成等、協会の活動力の強化を推進する。</p> <p>・指導体制の確立⇒指導者研修、講習等を実施し、高い目標と知識を持った指導者の養成を行うとともに、小～中～大～社会人に至る一貫指導体制の充実を推進する。</p> <p>・選手の育成・強化⇒一貫指導体制の基礎となるジュニアハンドボールの指導に重点を置き、基礎・基本の定着を目指す。その基本の上に、中～社会人おいう強化を図る。</p> <p>・強化担当者や熱意のある優秀な指導者を中央競技団体が行う講習会等及び他県の強豪チームや学校に派遣し資質向上に努めるとともに、強化計画の確立等へ反映させる。また、強化の方法についての研修会・情報交換会を実施し情報の共有や指導者の資質の向上に努める。</p> <p>・青年選手の育成・強化・確保・企業チームやクラブチームなどを支援し、成年の強化を図る。</p> <p>・ジュニア選手の発掘・育成・強化、次期国体で活躍が期待される小・中学生を中心に、年齢や発達の段階に十分配慮しながら、運動好きな子どもを育成し、子ども達全体の体力の向上を図る。また、ジュニアスポーツ教室や体験教室等の支援を行うとともに、会場市町村の決定後、部活動やクラブの配置及び強化事業の実施を推進する。さらに、教員採用試験での特別選考を活用し、全国トップの選手など優秀な人材の採用とその人材によるジュニア選手の育成に取り組む。</p>	成年男子	優勝	優勝	40.0	40.0
			成年女子	国体初戦突破	国体出場	0.0	
			少年男子	国体初戦突破	国体出場	0.0	
			少年女子	国体初戦突破	国体出場	0.0	
15	自転車	<p>高校生が冬場のトレーニングを経て力をつけてきたので、かなり期待できると思われる。全国大会等の経験を生かし、国体上位入賞の目標を持たせ、ロード練習で地足をつけトラックのスピード練習につなげたい。</p>	成年男子	スプリント優勝 チームスプリント上位入賞	スプリント入賞 チームスプリント入賞	11.0	19.0
			少年男子	スプリント上位入賞 ケイリン上位入賞	スプリント入賞 ケイリン入賞	8.0	
16	ソフトテニス	<p>成年女子においては、中学、高校で強化を図り活躍した選手が高校卒業とともに競技から離れてしまう傾向にある。佐賀国体に向けて、全カテゴリー（特に成年女子）、普及と強化の一体化を再度念頭に置き、強化を進めていきたい。</p> <p>各カテゴリー別の強化練習会は他県との合同合宿も計画に入れて強化を地道に図っていく。また、ジュニア、中学、少年、成年の有望選手が一斉に集まった練習会と、少年と成年の男女別が合同で集まった強化練習会を佐賀国体に向けて定期的に計画し、選手・指導者の練習に取り組む目的・目標のレベルを高めていきたい。</p>	成年男子	国体ベスト8	国体初戦突破	5.0	5.0
			成年女子	国体初戦突破	本国体出場	0.0	
			少年男子	国体初戦突破	本国体出場	0.0	
			少年女子	国体初戦突破	本国体出場	0.0	
17	卓球	<p>(成年男女) 県外大学の学生がメンバーとなる可能性が高いので、合同での練習を行う事は困難であるが、予選会等で帰佐した折に場所を設定し強化練習を行い、選手監督の意志疎通を図りたい。更に各大学でエース級としての力をつけられるよう連絡を取り状況把握に努め選手達の意識の向上を図る。</p> <p>(少年男女) 各中高校の母体での強化を基本とし、予選後メンバーでの合同練習会、遠征を行う。</p> <p>(ターゲットエイジ) 8年後の少年の部(現小1～小4)までを対象に年4回の外部講師による研修会、年3～4回の合同練習会を行う。卓球に関心を待ちジュニア競技人口を増やすための1つの手立てとして、来年4月上旬に全日本実業団のビッグトーナメント大会を本県で開催する予定である。</p>	成年男子	ベスト8	本国体出場	7.5	15.0
			成年女子	ベスト8	初戦突破	7.5	
			少年男子	ベスト16	本国体出場	0.0	
			少年女子	ベスト16	本国体出場	0.0	

No.	競技	強化方針	本国体における目標				
			種別	最高	最低	競技得点	合計
18	軟式野球	<p>佐賀県選抜チームの選手を選考するため、県内13支部代表チームによる代表選考会を実施する。選考会の優勝チーム選手を中心として選抜チームを編成するが、県連盟役員及び強化部長と監督・コーチが協議を行い、必要に応じて選手を補強する。</p> <p>選抜チームは、県内での強化練習や強豪チームを招聘して強化試合の他、県外遠征による試合等を行い、チームとしての強化を図る。</p> <p>また、将来的な強化策として有望な選手の情報収集・発掘を行い、地元企業等へ斡旋できる体制を整える。</p> <p>その他、指導者講習会を開催し、指導者の知識習得・情報共有により指導力を向上させ、県内全体のチーム力を底上げする。</p>	成年	優勝	本国体出場	64.0	64.0
19	相撲	<p>例年、国体までに10回ほど強化練習会を実施している。</p> <p>成年男子は地道な強化が実り選手層も厚くなったが、昨年は予選落ちという結果だった。予選通過県との大きな差はない。今後は全国トップレベルの長崎県や大学生との合同練習を実施し、より一層のレベルアップに努めたい。</p> <p>少年男子は全国でもレベルが低く、まずは人材確保、人材発掘をし、基礎練習をしっかりとこない少しでもレベルをあげていきたい。</p>	成年男子	ベスト8	予選1勝5点	17.5	27.5
			少年男子	予選2勝	予選0勝3点	10.0	
20	馬術	<p>(1) 指導者の養成・確保、ジュニアからの成年選手の育成、ジュニアの確保、馬匹の確保。</p> <p>(2) 今後の国体すべてにむけて選手強化、ジュニアの確保・募集を行う。</p>	成年男子	—	—	—	24.0
			成年女子	馬場馬術・障害飛越個人3位入賞	8位入賞	16.0	
			少年男子	馬場馬術個人3位入賞	8位入賞	8.0	
			少年女子	—	—	—	
21	柔道	<p>成年男子・女子、少年男子・女子の強化スタッフを早期に選定し、ふるさと選手を含めた強化合宿を計画的に実施し、本国体出場及び入賞を目指す。</p> <p>また、昨年度より佐賀県柔道協会全体で連携を図りながら、佐賀国体に向けた長期的な強化を行うべく強化スタッフによる強化会議を数ヶ月に一回実施し、指導者の育成及び競技者の確保・技術向上に努めている。</p>	成年男子	3位入賞	本国体出場	30.0	57.5
			成年女子	本国体入賞	本国体出場	7.5	
			少年男子	本国体入賞	本国体出場	12.5	
			少年女子	本国体入賞	本国体出場	7.5	
22	ソフトボール	<p>1 本年度国体の強化方針</p> <p>本国体出場が第一目標であるため、県内現有選手の育成・強化が主である。</p> <p>競技団体としては、県内ジュニア層の競技力向上を継続することで、成年層の底上げを図りたい。そこで、競技団体からの要望としては県内中学校に男子ソフトボール部の新設、県内高校に男子ソフトボール部の追加設置を要望したい。</p> <p>2 佐賀国体に向けた強化の方針</p> <p>種目総合優勝を目指し、県内現有選手の育成・強化に加え、県外選手の補強が重要となる。</p> <p>成年層では、過去の国体開催県と同様に、企業等への就職斡旋が急務である。</p>	成年男子	本国体優勝	本国体出場	64.0	128.0
			成年女子	本国体出場	本国体出場	0.0	
			少年男子	本国体出場	本国体出場	0.0	
			少年女子	本国体優勝	本国体出場	64.0	

No.	競技	強化方針	本国体における目標				
			種別	最高	最低	競技得点	合計
23	フェンシング	<p>少年男女選手は、県外から日本代表レベルの指導者を招聘し、技術指導と共に意識向上を図る。また県外への遠征や練習試合へ積極的に参加し、実践的経験を積ませ強化を図る。</p> <p>成年男女選手は、ふるさと選手制度を活用し他県で活躍する大学生の選手や一般選手を確保するとともに、佐賀県で定期的な強化合宿を行いながら、国体選手としての意識向上と技術向上の強化を図る。</p> <p>各種別において選手数が少ないため、長期的な選手発掘と育成・強化が求められる。ジュニアや高校生選手を増やし、大学へ進学し成年選手として活躍できるように継続的、計画的な体制が必要であり、現状のままでは佐賀国体に向けて大変厳しい状況が見込まれる。現選手の強化はもとより、県内フェンシング場の整備と普及事業が急務である。</p>	成年男子	ベスト8入賞	初戦突破	3.0	24.0
			成年女子	ベスト8入賞	本国体出場	3.0	
			少年男子	ベスト8入賞	本国体出場	3.0	
			少年女子	ベスト4入賞	本国体出場	15.0	
24	バドミントン	<p>バドミントンの佐賀県の競技人口は、横ばいである。数年前からのジュニア期からの一貫指導が少しずつ成果を出しつつあるので今後とも小・中・高からの合同練習をしながら強化を進めていきたい。また、ここ数年国体候補選手の成年男女・少年男女による合同練習会を行った。そこでは競技力の向上には、まず意識改革が必要であるので、ふるさと選手も含めたチーム佐賀としての団結力の育成及び個人やチームとしての目標をより高く明確化していくことの浸透を図っている。小、中、高、一般のたてのつながりのなかでアドバイス等をする姿も見られた。今年度は県外の実力のある選手にふるさと選手として出場できるような環境整備に力を入れていきたい。また今後とも全種別合同による練習を入れながら意識改革と競技力の向上を目指していきたい。</p>	成年男子	国体5位	本国体出場	7.5	30.0
			成年女子	国体5位	本国体出場	7.5	
			少年男子	国体5位	本国体出場	7.5	
			少年女子	国体5位	本国体出場	7.5	
25	弓道	<p>※ 一般男女選考 ① 1月～6月までの各競技会成績を考慮する。 ② 6月10日に選手を決定する。 ※ 一般男女の強化 ① 6月10日より強化練習を毎週日曜日に行う。 ② 特に遠的の強化に重点を置く ※ 少年男子・少年女子 ① 代表選手顧問と監督が連絡を取り合いながら計画的に練習を行う。 ② 近的練習は各学校で行い、遠的は佐賀市の道場で強化練習を行う。</p>	成年男子	3位内入賞	8以内入賞	18.0	27.0
			成年女子	8位内入賞	8位内入賞	3.0	
			少年男子	8位内入賞	8位内入賞	3.0	
			少年女子	8位内入賞	8位内入賞	3.0	
26	ライフル射撃	<p>大学生・高校生の選手の育成を重点的に行っていききたい。 現在の当協会は社会人の選手の有望選手が少ないうえに、満身に練習できる環境にない。 そのため、人数は少ないが高校生、大学生の選手を重点的に強化していきたい。 また、中学生や高校生の選手の獲得に努力していきたいが、高校に部活がない佐賀県と他県の差は広がるばかりである。早急に部活を設置していかないと佐賀国体に向けた強化ができない。</p>	成年男子	3名出場	1名出場	5.0	11.0
			成年女子	1名出場	1名出場	1.0	
			少年男子	2名出場	1名出場	5.0	
			少年女子	—	—	—	

No.	競技	強化方針	本国体における目標				
			種別	最高	最低	競技得点	合計
27	剣道	平成21年度より実施している県剣道連盟主導による成年男女及び中・高校生を選抜強化指定選手として指名し、自覚と使命感を持たせ積極的に稽古会等に参加させ指定選手として士気の高揚を図る。技術面はもちろんのことメンタル面の強化にも努める。	成年男子	優勝	ベスト8	40.0	144.0
			成年女子	優勝	本国体代表権獲得	24.0	
			少年男子	優勝	本国体代表権獲得	40.0	
			少年女子	優勝	本国体代表権獲得	40.0	
28	ラグビーフットボール	企業や大学等に協力を頂き、ふるさと選手の活用を図る。	成年男子	優勝	本国体出場	7.5	19.5
			少年男子	優勝	本国体出場	12.0	
29	山岳	<p>昨年度に引き続き、佐賀県山岳連盟の国体(佐賀国体)に向けた強化の方針は以下の3本柱を考えている。</p> <p>①選手の育成 ②指導者の育成、国体のための組織作り ③スタッフの育成・拡充</p> <p>①については短期目標から長期展望まで考えながらの育成を行う。具体的には現高校生、中学生は直近の国体での上位入賞を目指すことで佐賀国体時には成年の選手としての活躍につなげることができると考える。佐賀国体時の少年種別については小学校低学年生徒の育成・発掘を行う。この種別は男子については有望な選手が見つかっているが女子については発掘ができていないので早急に解決する必要があるし、前述の男子に置いても層が厚いとは言えないのでその点も含めて発掘育成を推し進めていく。</p> <p>②指導者の資質向上と次期指導者の発掘を行う必要がある。資質向上についてはトップアドバイザー事業等を最大限活かし指導方法について見直し再構築を行う。昨年度のこの事業では少年種別の一部の選手に効果が顕著に表れてきたので今年度は、さらに小学校低学年クラスの選手を中心に指導を進めていきたい。又、国体へ向けての組織作りも取り組み始める。当山岳連盟が小規模団体であり国体の運営の中枢に当たる人材を確保するのも非常に困難になると予想されるために早急に取組まなければならない。さしあたっては、競技運営部門に樋口義朗(現多久高校)をチーフに置く。又、全体運営のチーフに武末良樹(現鳥栖高校)を置き、両チーフの連絡体制がリアルタイムにとれるように武末良樹の多久高校への人事異動を昨年度に引き続きお願いしたい。</p> <p>③ここであつところのスタッフはルートセッター、ジャッジ、トレーナーである。ルートセッタージャッジについては強化事業等を利用してさらに上の資格を取得してもらい高い見地からの競技への還元を考えている。とくに、現B級ルートセッターの徳永一也についてはA級トレーナーに昇格できるようにバックアップを行っていきたいと考える。トレーナーについても現在2名のトレーナーに専属でついてもらっているが同様に強化事業費等を利用して競技の専門性について知見を高めてもらい今まで以上に深く関わってもらおう。それと共に、1種別1トレーナーが実現できるように新トレーナーへの声かけを積極的に行う。</p>	成年男子	本国体 リード競技3位以内 ボルダークラス優勝	本国体 リード競技8位以内 ボルダークラス8位以内	35.0	59.0
			成年女子	ブロック国体通過	九州ブロック5位	0.0	
			少年男子	本国体 リード競技8位以内 ボルダークラス8位以内	九州ブロック通過	6.0	
			少年女子	本国体 リード競技6位以内 ボルダークラス6位以内	本国体 リード競技8位以内 ボルダークラス8位以内	18.0	

No.	競技	強化方針	本国体における目標				
			種別	最高	最低	競技得点	合計
30	銃剣道	<p>1 成年男子については、ふるさと選手(自衛官)を活用し、各勤務地(福岡)で福岡県チームとの練成に参加する。 国体前1～2週で、佐賀県銃剣道連盟で、合宿を実施し、選手のチームとしての練成、意思の疎通等を図る。</p> <p>2 少年男子については、九州ブロック突破を第一目標とし、唐津錬武館において、会長の指導のもと練成し、本国体入賞を目指す。</p>	成年男子	3位入賞	8位入賞	18.0	21.0
			少年男子	8位入賞	本国体出場	3.0	
31	スケート	<p>スピードクラブ、フィギアクラブともクラブ員0人の状態が何年も続いています。スケート連盟としては、国体予選の参加を目指していますが、最近は、予選も参加できない状況が続いています。スケート場がないので、クラブ員を募集することは難しいですが、佐賀から福岡県のスケートクラブに通われている選手の情報を福岡県スケート連盟の方からいただいているところです。</p>	—	—	—	—	—
32	クレイ射撃	<ul style="list-style-type: none"> 公式大会に積極的に参加する(3回以上)(県代表は公式大会参加上位得点者から選出) 国体(ブロック含む)強化候補選手の指定(射撃場入場料の免除、装弾等の補助) 個々選手のメンタル部分の強化等 若い選手の育成 九州地区射撃連盟による国体強化合宿への参加 	スキート	入賞	15位内	3.0	6.0
			トラップ	入賞	20位内	3.0	
33	空手道	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の強化練習会は、昨年度までの回数から1.5倍に回数を増やし実施。 強化練習は、佐賀県内の高校生から招集し大学生社会人と合同による稽古を行い、高校生の競技力アップを行っている。 8月29日30日、鹿児島県出水市総合体育館で開催される九州国体選手強化合宿へ参加予定。 組手競技の成年選手は、大学生を中心に選出し競技感の高い選手より選出 少年(高校生)は、佐賀県選手権大会と高校総体の優勝者から選出。 形競技については小数の選手選出で、コーチ陣の集中した指導を行う。 	成年男子	本国体出場	予選通過	0.0	0.0
			成年女子	本国体出場	予選通過	0.0	
			少年男子	本国体出場	予選通過	0.0	
			少年女子	本国体出場	予選通過	0.0	
34	スキー	<ul style="list-style-type: none"> ① 夏場(オフシーズン)における強化練習。(アスレチックジム等を利用して) ② 自主トレーニングプログラム作成をし、候補選手への練習実践へのチェックと支援。 ③ 強化合宿の実施。 <ul style="list-style-type: none"> 12月末 北海道ニセコにて約10日の実践練習 1月中旬 大山にて3日間の実践練習 3月末 北海道ニセコにて約4日の実践練習 ④ 早朝練習(12月～2月 主に日曜早朝(オープン前)においてのポールセット実践練習。 	成年男子	60位以内(タイム差10秒以内)	70位台、(タイム差15秒以内)	0.0	0.0
			成年女子	60位以内	50位以内	0.0	
			少年男子	九州1位。全国80位台。	100位以内	0.0	
			少年女子	九州1位。全国80位台。	90位以内	0.0	

No.	競技	強化方針	本国体における目標				
			種別	最高	最低	競技得点	合計
35	アーチェリー	<p>各種別において選手数が少ないため、早めに選手を絞り込んで強化を行いたい。</p> <p>◎少年・平成35年佐賀国体を見据え、長期的な選手の育成強化を行おうと考えているので、各高校に在籍している少年を少しでも多くの競技会に参加させ、競技レベルを上げ、国体選手をはじめ、それ以外の選手も技術向上に努めたい。※競技者や指導者として大学進学を促したい。また、条件が許す様であれば、積極的に県外遠征を行い、競技意識を上げる状態に持って行きたい。</p> <p>◎成年・昨年まで少年で選手として活躍した選手たちが、進学で競技を続けている為、男女とも競技レベルは昨年よりも上がると思われる。しかし、社会人選手も在籍する為、職場の理解(練習時間確保・宿泊遠征の許可等)を得られる努力をしていきたい。定期的な合同練習と競技会参加を促し、遠距離県外遠征等の計画。</p>	成年男子	国体入賞	本国体出場	3.0	36.0
			成年女子	国体入賞	本国体出場	3.0	
			少年男子	国体入賞(4位以内)	本国体出場	15.0	
			少年女子	国体入賞(4位以内)	本国体出場	15.0	
36	カヌー	<p>・国体に向け合同練習、合宿の実施 県選抜チームを編成し、月に2～3回をめぐり合同練習・合宿をおこなう。選手の意識やチームワークの向上を目指す。</p> <p>・指導者の確保、育成 ① 平成27～30年度までに、教員採用試験(スポーツ・芸術特別選考)で指導者を確保する。採用の受験資格で(優れた成績を残した実績等の考慮)まで広げてほしい。</p> <p>② 県内各チームの指導者を集め、強化方針の共通理解や技術力向上に関する学習会をおこなう。県外強豪チームの指導者の元で研修をおこなう。</p> <p>・施設の有効利用 佐賀県ボート協会の協力で嘉瀬川ダム(しゃくなげ湖)を利用。全長2500mのコースは全国でも少なく、有効利用することで競技力向上を図る。</p> <p>・カヌー競技の普及 ① カヌー教室実施、6～10月に一般の人を対象におこなう。場所(神崎市B&G海洋センター) ② ジュニアの強化(小・中学生) 神埼ジュニアカヌークラブ、カヌー競技専門の指導者を置き平成25年4月から活動開始。</p>	成年男子	入賞	本国体出場	6.0	16.0
			成年女子	入賞	本国体出場	6.0	
			少年男子	入賞	本国体出場	3.0	
			少年女子	入賞	本国体出場	1.0	
37	ボウリング	<p>4～7月は、毎週国体の強化練習に充てたいところであるが、全九州や全日本の大会に参加したり、ジュニアの教室を開催したりで、思うような強化練習の日程が取れない。さらには、成年男子の2名は、ふるさと選手で練習にも参加することができない。そこで、月に1回充てた強化練習では、九州ブロック突破へ向けた選手・監督の意識を高められるような集中した練習を行う。</p> <p>今年は、選手が1人も欠けることなくフルエントリーするので、1つでも多く九州ブロックの突破を目指す。</p> <p>7月4日～5日にはブロック大会の会場で1泊2日の合宿を行う。</p>	成年男子	入賞	本国体出場	10.0	10.0
			成年女子	本国体出場	本国体出場	0.0	
			少年男子	本国体出場	本国体出場	0.0	
			少年女子	本国体出場	本国体出場	0.0	
38	なぎなた	<p>●成年:大学生や一般選手とを定期的と同じ場所に集合させ、強化練習を計画的に行う。県外遠征や強化合宿等にも積極的に参加し、技術の向上や高度な試合展開ができるようになるよう強化する。</p> <p>●少年:各学校ごとでの練習を充実させるとともに、合同強化練習を実施し、メンタル面の強化や技術指導を計画的に行う。県内において県外チームを招聘しての合同練習や県外遠征を積極的に行い、より高い試合での攻防の展開ができるよう強化する。</p>	成年女子	●演技:ベスト4 ●団体:ベスト4	●演技:ベスト8 ●団体:ベスト8	30.0	69.0
			少年女子	●演技:ベスト4 ●団体:優勝	●演技:ベスト8 ●団体:ベスト8	39.0	

No.	競技	強化方針	本国体における目標				
			種別	最高	最低	競技得点	合計
39	アイスホッケー	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生(地元の佐賀大学)のレベルアップ。 ○ 社会人チーム(佐賀クラブ)の活動継続 ○ 夏場からの合同練習機会の確保による体制づくり ○ ふるさと選手の情報収集 <p>県内にスケートリンクが無いため、県外での練習を余儀なくされており、技術・体力ともに充実する大学生にとって、金銭面や移動時間などの負担で、十分な練習回数が確保できていない。このため、現在、社会人クラブチームの練習に参加することでこれを克服しており、そのための財政的支援として、県体育協会からの強化費が非常に効果的なものとなっている。</p>	成年男子	国体2回戦突破(ベスト8)	九州ブロック大会3位(国体出場)	8.0	8.0
40	ゴルフ	国体の上位入賞を目指し選手選考会を昨年よりハードルを上げ開催しています。成年男子は2回36ホールでの選考をしています。選考選手6名・マスターズ6名の選手は国体開催まで、県内全てのゴルフ場で特別優待をして練習を補助しています。また、監督・全選手合同での強化練習日を設けて意識向上・技術向上を開催しています。	成年男子	10位台	20位台	0.0	0.0
			女子	10位台	20位台	0.0	
			少年男子	本国体出場	本国体出場	0.0	
目標競技得点合計						1478.5	